

「郷土を愛し、未来を創る人づくり」のための
自己点検・評価報告書

令和8年3月

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会

(参考) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(幼保連携型認定こども園に関する意見聴取)

第二十七条 地方公共団体の長は、当該地方公共団体が設置する幼保連携型認定こども園に関する事務のうち、幼保連携型認定こども園における教育課程に関する基本的事項の策定その他の当該地方公共団体の教育委員会の権限に属する事務と密接な関連を有するものとして当該地方公共団体の規則で定めるものの実施に当たっては、当該教育委員会の意見を聴かななければならない。

(教育委員会の意見聴取)

第二十九条 地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかななければならない。

I はじめに

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会では、管理市である御前崎市が策定した第2次御前崎市総合計画の教育文化分野の基本目標「郷土を愛し 未来を創る 人づくり」に基づき、御前崎市教育大綱及び御前崎市教育振興基本計画の基本方針である「園・学校、家庭、地域、産業界、各団体、行政等がスクラムを組み、協働することによって、1 思いやりがあって互いを認め合うことができ、たくましくしなやかな子どもが育つ 2 生涯にわたってともに学び続け、互いに高め合う市民が育つ」ための教育行政を展開しています。そして、その年度の主要施策及び取組について、管理市の教育を説明する『スクラム御前崎』の中で示しています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条では、教育行政の効果的推進及び市民への説明責任を果たすために、「教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行う」ことを義務付けています。

このことを受けて、教育委員会では令和7年度『スクラム御前崎』で示した主要施策及び取組の自己点検及び評価を行い、その客観性を確保するため、構成市内の学識経験者4名から意見をいただくとともに、静岡大学教育学研究科 武井敦史教授に総合評価をお願いし、検検証したものを報告書として取りまとめました。

今回の点検及び評価を令和8年度の施策に活かし、新たに策定された第3次御前崎市総合計画でも基本目標を達成していくために、それぞれの取組を推進してまいります。

令和8年3月

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会
教 育 長 吉 村 紳 治 郎

Ⅱ 点検・評価について

1. 趣 旨

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、市議会に提出するとともに一般に公表することにより、市民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

※本自己点検・評価報告書は、御前崎市の自己点検・評価報告書から御前崎市牧之原市学校組合に係る箇所を抜粋して作成しています。

2. 点検・評価の対象

点検及び評価は、令和7年度「スクラム御前崎」に沿って、本年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施いたしました。このため、スクラム御前崎に「重点取組」として掲げた15の施策とそれに伴う事業について評価を行っています。

3. 点検・評価の方法

点検及び評価の実施にあたっては、令和7年度の事業について、その進捗状況を総括するとともに、内部評価を行うことにより課題や今後の取組みの方向性を明らかにし、その結果を外部評価として、元園長 渡辺 和子 氏、民間企業代表 植田 浩行 氏、元教員 齋藤 剛氏、元高校教員 二俣 實氏の御意見や、静岡大学教育学研究科教授 武井 敦史 氏に総合評価を頂くことにより、教育に関する学識経験者の知見活用に努めました。

4. 点検・評価の表し方

点検及び評価については、事業の本年度目標達成度をS「目標以上の成果」、A「目標どおりの成果」、B「目標まであと少し」、C「まだ目標に届かない」D「達成に努力を要する」の5段階で評価しました。また、本年度執行予定の事業を、本年度3月末までにどれだけ実行できたかを「執行度」として0～100%で表し、その事業自体の「妥当性」「効果性」「効率性」をそれぞれ、1「非常に低い」、2「低い」、3「どちらともいえない」、4「高い」、5「非常に高い」の5段階で表しました。「妥当性」とは、「第2次御前崎市総合計画 2016～2025」に掲げた目標達成のために、その事業自体がどれほど妥当かを評価しています。「効果性」とは、実際に事業を進めた結果、得た効果について評価しています。「効率性」とは、コスト面・人員面において費用対効果がどれほどかを評価しています。

実施できなかった事業については、「－」で表しています。

Ⅲ 重点取組

令和7年度の教育委員会の自己点検及び評価についての報告書をまとめるにあたり、本年度の教育計画において重点取組として掲げた目標に対する評価を実施しました。事業の目標達成度は、「S・A・B・C・D」の5段階で評価しました。また、本年度3月末までの1年間に執行予定とした事業をどれだけ遂行できたかを示すため、本年度執行度において完遂を100%、完遂未達を0～99%の数値で表し、妥当性、効果性などを数字の5段階で評価しました。

◎事業の目標達成度 S・・・目標以上の成果 A・・・目標どおりの成果 B・・・目標まであと少し C・・・まだ目標に届かない D・・・達成に努力を要する	◎事業の本年度執行度 本年度分の事業の遂行完遂 100%で表す 完遂できなかったもの 0～99%の数値で表す	◎点検・評価について ○妥当性・効果性・効率性 5・・・非常に高い 4・・・高い 3・・・どちらともいえない 2・・・低い 1・・・非常に低い	◎今後の方向 ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤一部変更 ⑥修正検討 ⑦転換 ⑧中止
--	--	---	--

1. 生活習慣（学習習慣）の定着

御前崎市スクラム・スクール運営協議会を年間2回実施し、地域代表、保護者代表、学校職員、行政職員が子供をとりまく諸課題について協議を行った。前年度のアンケート結果をもとに、地域としてどのような支援ができるかをグループに分かれて話し合った。

各小中学校では、学校運営協議会を年間2～3回実施した。家庭・地域が学校の教育活動に参画する機会となった。

市青少年健全育成会議では、市スクラム・スクール運営協議会と目標を同じくし、「早寝早起き朝ごはん」「電子メディアとの主体的・自律的な関わり」を重点取組として、各地域へ意識啓発を行った。また、スクラム御前崎の集いを地区推進委員会と合同開催し、地域一丸となって「地域を愛し未来を創る御前崎人」を育てる機運を高めた。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
スクラム・スクール運営協議会	A	100%	5	5	5	5	継続
各学校スクラム・スクール運営協議会の実施	A	100%	5	5	5	5	継続
家庭教育支援の推進	A	100%	5	5	5	5	継続
市青少年健全育成会議・地区推進委員会の開催	A	100%	5	5	4	4	継続
「スクラム御前崎の集い」の開催	A	100%	5	5	4	4	継続
平均		100%	5	5	4.6	4.6	

※スクラム・スクール運営協議会 … 御前崎市のコミュニティー・スクール運営協議会の名称。

2. 市の特色を生かした教育や体験による愛郷心の育成

市の特色を生かし、学校と地域が連携した学習の一環として、小学校では原子力発電所の見学を、小中学校では理科や社会科の学習におけるゲストティーチャーとして中部電力株式会社の職員を招いて出前講座を実施した。体験学習を通して、発電のしくみやエネルギーミックスについて考える機会となった。体験で得た学びが、学習する单元の中で位置づけられ、必要な資質・能力の育成につながるように授業を実施する必要がある。

「御前崎クエスト」では、異学年集団による自然体験や地域資源を生かした活動を通じ、生きる力や生き抜く力を養い、地域愛の醸成が来ている。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
青少年成人教育事業「御前崎クエスト」の実施	A	100%	5	5	4	4	継続
エネルギー教育の推進	B	91%	4	4	5	5	継続
地域教材(社会科副読本)の活用	A	100%	5	5	5	5	継続
平均		97%	4.7	4.7	4.7	4.7	

3. 読書・読み聞かせの推進

図書館では、館内でのおはなし会の開催に加え、園等へ職員や読み聞かせボランティアが出向いて読み聞かせを行うアウトリーチ活動を積極的に実施している。これにより、図書館に足を運ぶ機会の少ない子供たちにも読書への関心や意欲の向上につながっている。地域の教育機関と連携した継続的取り組みは子供読書活動推進において有効であり、図書館の役割を広げる成果が見られる。小中学校では、4名の司書が各校の図書担当職員と連携し、読書活動の推進に取り組んでいる。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
園の読書環境の整備	A	100%	5	5	5	5	継続
学校における読書活動の推進	A	100%	5	5	5	5	継続
市立図書館と学校図書館の連携	A	100%	5	5	5	4	継続
読み聞かせなどのボランティアの協働	A	100%	5	5	5	3	継続
子供のための読書環境の整備	A	100%	5	5	5	4	継続
市立図書館の充実した資料収集	A	100%	5	5	4	3	継続
平均		100%	5	5	4.8	4.0	

※アウトリーチ … 積極的に対象者のいる場所に出向いて働きかける活動。

4. 乳幼児の保育・教育の充実と円滑な園小接続

子供の興味や発達を捉え、主体的に遊び、試すことのできる環境のしかけを継続的に工夫するとともに、子供たちが自ら動こうとする力を育てる保育者のかかわりについて実践を重ねてきた。

また、上智大学奈須教授や鳴門教育大学佐々木教授を招聘し、市内園の保育者に加え、市内小・中・高等学校教諭も研修に参加し、環境を通じた主体的な遊びやくらしの重要性について共通理解を深めることができた。園で培われた力を土台として、小学校以降の自覚的な学びへと繋げていくことの大切さを再認識する機会となった。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
主体的な遊びや体験を充実させる環境づくり	A	100%	5	5	5	5	継続
教諭・保育士対象各種研修会の実施	A	100%	5	5	4	4	継続
スクラム研究会の実施	A	100%	5	5	5	5	継続
平均		100%	5	5	4.7	4.7	

※園小接続 … 幼稚園・保育所・認定こども園での幼児期教育と小学校教育を円滑につなぐ取り組み。

※スクラム研究会 … 御前崎市管内の公立園・小中学校だけでなく、私立園や市内高等学校の先生も参加するスクラム・スクール・プランに基づく研修。

5. 家庭教育支援の充実

家庭教育学級活動支援補助金により、市内幼保こども園へ支援を行った。補助金により、講演会や演劇鑑賞、親子体操、茶道体験など親子活動を実施し、各園での家庭教育の実施を支援した。

アプローチ・スタートアップブックには、市が推進する「早寝・早起き・朝ごはん」や「ネット依存・ゲーム障害対策」等スクラムの取り組みを掲載し、家庭教育の重要性を広く周知した。また、学校教育課・こども未来課・園が緊密に連携し、定期的な園訪問や療育教室を通じて児童理解を深め、個に寄り添う支援内容を共有した。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
家庭教育支援の推進【再掲(1)】	A	100%	5	5	5	5	継続
家庭教育学級への支援	A	100%	5	5	5	4	継続
家庭教育支援員の配置	A	100%	5	5	5	4	継続
アプローチ・スタートアップブックの活用	A	100%	5	5	4	5	継続
療育指導員による療育の推進と充実	A	100%	5	5	5	4	継続
平均		100%	5	5	4.8	4.4	

※アプローチ・スタートアップブック … 園から小学校への進学を円滑に接続するために必要な情報を、保護者や家庭に案内している御前崎市のパンフレット。

※療育 … 発達障がいや障がいを持つ子供たちに対して行う、個々の特性に応じた治療と教育を組み合わせた支援。

6. 互いの人権を尊重し、思いやりを大切にする教育への取組

各教科の学習や日々の生活を通して、自分とは異なる考え方に触れることで、多様な見方や考え方を身に付け、自らを振り返り、自分も周りの人もよりよく生活するための、道徳的価値や人権感覚を養った。

いじめ問題対策連絡協議会では、各校の現状を共有するとともに、いじめ認知についての協議を通じて、普段から関係諸機関が連携できる関係づくりと共通理解を行った。

適応指導教室「サンルーム」は、学校や集団生活等に不安を抱える児童生徒が利用をし、学習の機会や居場所としての機能を果たしている。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
各校での指導の実施	A	100%	5	5	5	5	継続
「しおかぜ先生」の配置	A	100%	5	5	4	4	継続
いじめ問題対策連絡協議会の開催	A	100%	5	5	5	5	継続
適応指導教室「サンルーム」の運営	A	100%	5	4	5	5	継続
平均		100%	5	4.8	4.8	4.8	

※しおかぜ先生 … 特別な支援を要する子や不登校に悩む子など、児童生徒一人一人に応じた教育を推進するために御前崎市費負担で配置する教員。

7. 探究的な学び・協働的な学びの深化

本市授業改善アドバイザーである上智大学奈須正裕教授を招聘し、市内園・小中学校で公開授業・研修会を実施した。「個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進」や「自立した学び手の育成」について、各園・校で指導を受けた内容をもとに、授業改善が進んだ。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
市独自の学力調査の実施、分析と活用をもとにした各校での指導	A	100%	5	5	5	5	継続
スクラムゼミナールの実施	A	100%	5	5	5	5	継続
教職員対象各種研修会の実施	A	100%	5	5	4	4	継続
外国語指導助手(A L T)及び英語活動指導員の配置	A	100%	5	5	5	5	継続
学習支援員等の配置	A	100%	5	5	4	3	継続
平均		100%	5	5	4.6	4.4	

※スクラムゼミナール … 「授業改善スーパーバイザー」を招聘し、小中学校で新学習指導要領にある「資質・能力」の育成を目指した御前崎市の授業改善の取組研修。

8. GIGAスクール構想による新しい学びの展開

国のGIGAスクール構想5年目となった。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためのツールとして学習者用端末の活用がされている。また、各校にICT支援員を配置し、授業づくり支援と校務DX化に対する支援が行われている。授業づくり支援では、ソフトウェア研修等を通して、授業における学習者用端末やクラウドの活用につながり、子供の学びの幅が広がった。

また、校務支援サイトや紙資料のデジタル化など、校務DX化も推進されてきた。活用の広がりによって、これまで以上に教職員と児童生徒の情報モラルを含めた情報活用能力の向上が重要となっている。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
情報モラル学習の推進	A	100%	5	5	5	5	継続
ICT支援員の配置	A	100%	5	5	5	5	継続
デジタル教材の活用 (GIGAスクールの推進)	B	80%	5	5	5	5	継続
学校のICT環境の向上	A	100%	5	5	4	5	継続
平均		95%	5	5	4.8	5	

※GIGAスクール構想…特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現すること。

また、これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すこと。

※ICT…Information and Communication Technologyの略。情報通信技術。

※DX…デジタルトランスフォーメーションの略式表記。ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること(出典 総務省サイトより)

9. 健康教育を通じた体力の向上と健やかな体づくり

調査結果を分析することで、市内小中学校の児童生徒の運動能力や運動習慣等を客観的に捉えることができた。市で取り組んでいる「早寝・早起き・朝ごはん」との関連を分析し、市内小中学生の生活習慣の改善啓発に必要なデータとして活用した。

食育指導の推進においては、小中学生を対象とした食に関する授業や学級活動への講師参加、食事のマナー指導など多方面から子供たちの食への関心と理解を深めている。給食センターの見学会やアンケートを通じて保護者や児童の意見を反映し、地域生産者との連携による特産品活用も行き、実践的な食育を推進している。これらの取り組みは、児童の食習慣改善や食育意識向上に有効であり、今後もさらなる充実が期待される。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
全国体力運動能力・運動習慣等調査の分析と活用をもとにした各校での指導	A	100%	5	5	5	5	継続
食育指導の推進	A	100%	5	4	4	4	継続
平均		100%	5	4.5	4.5	4.5	

10. 特別な支援を必要とする児童生徒への教育の充実

就学支援委員会においては、特別な教育的支援を必要とする園児・児童生徒一人一人に対し、適切な学びの場について慎重な審議をし、丁寧な就学支援を進めた。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
個性伸長支援員の配置	A	100%	5	5	5	4	転換
療育指導員による療育の推進と充実【再掲(5)】	A	100%	5	5	5	4	継続
学習支援員等の配置【再掲(7)】	A	100%	5	5	4	3	継続
就学支援委員会、個性伸長支援教育専門家チーム会議の実施	A	100%	5	5	5	5	継続
平均		100%	5	5	4.8	4	

11. 部活動の地域展開の推進

地域展開の基盤となる御前崎市地域クラブと既存団体を併用した「御前崎モデル」の実現に向け、競技団体と協議を重ねている。令和8年度夏以降の休日展開実施を円滑に進めるため、関係機関と連携を強化するとともに、事業の詳細について説明と協議を進めている。市民に対しては、中学校の新入生説明会で周知を行った。部活動検討委員会については、今後は活動を縮小することも検討している。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
部活動検討委員会の開催	B	100%	5	3	5	2	縮小
競技部会の開催	B	80%	5	5	5	2	継続
地域展開先行事業の実施	B	80%	5	5	5	2	継続
平均		87%	5	4.3	5	2	

※御前崎市地域クラブ … 部活動の地域展開の受け皿として、市が主体となって設立する団体のこと。

12. 学校の再編についての検討

御前崎市学校再編について、地域や学校の情報収集に努め、検討を継続している。本年度は、御前崎・白羽地区の未就学児の保護者に対する現況説明とアンケート調査を実施した。今後も、慎重に検討を行い、市民へ丁寧に説明をしながら計画策定をすすめていく。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
学校再編計画の検討	B	70%	5	3	5	5	継続
平均		70%	5	3	5	5	

13. ライフステージごとの学びの提供

個人や仲間との学びが循環できるように、手助けのツールとして、学びの航海図、学びのパスポート、生涯学習ガイドブックを作成し、市民が生涯学び続けることを支援している。社会教育学級へ補助金を交付し、活動の一助となっている。

シニアスクールには、御前崎スクールで25人、浜岡スクールで27人が参加した。講座を通じて、健康やAI、詐欺防止など様々な分野で学びを深めた。また、児童生徒との交流を通して、世代を超えた地域のつながりを実感できた。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
「おまえざき学びの航海図」の活用と生涯学習講座等の充実	A	100%	5	5	4	4	継続
「学びの循環」の仕組みづくりの推進	A	100%	5	5	4	4	継続
社会教育学級への支援	A	100%	5	5	4	4	継続
シニアスクールの実施	A	100%	4	4	4	4	継続
平均		100%	4.8	4.8	4	4	

※おまえざき学びの航海図 … ライフステージごとの目指す姿を記入することで、一生学ぶ人生航海の道しるべや人生のつながり方を表すために御前崎市が作成した生涯学習アイテム。

※学びのパスポート … 講座やサークル活動、芸術鑑賞やスポーツなどで得た学びを1回ずつ記入して振り返るために、御前崎市が作成した生涯学習アイテム。1冊に30回の学びが記録できて、30学び終了を申請するごとに認定証が交付される。

14. 生きがいや潤いをもたらす文化・スポーツの振興

振興公社やスポーツ推進委員、スポーツ協会、文化協会との連携により、市民の文化・スポーツ振興が図られた。文化振興では、関係団体と連携した事業や文化財の普及活動を実施し、多くの方々に文化や文化財に触れる機会を提供することができた。スポーツ振興では、幼児期からの運動環境整備による基礎体力の向上と、生涯を通して運動できる環境づくりに、各団体と協力し努めることができた。

図書館では、読書活動の推進にとどまらず、文化振興を目的として、各種講座やイベント事業を実施した。多様なテーマ設定や世代別の企画により、幅広い層の参加を得ることができ、図書館を身近な学びと交流の場として認識してもらう機会の拡充につながった。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
市振興公社との連携によるスポーツ及び文化の振興	A	100%	4	4	3	3	継続
軽スポーツ教室・大会の開催	A	100%	4	4	4	4	継続
文化協会、スポーツ協会との連携	A	100%	4	4	3	3	継続
市文化祭の開催	A	100%	5	5	4	4	継続
図書館での展示や講演会など文化事業の開催	A	100%	5	5	3	3	継続
平均		100%	4.4	4.4	3.4	3.4	

15. 教職員の働き方改革の推進

勤怠管理システムにより各校の勤務時間管理を行う中で、時間外勤務時間の削減のためにできる業務改善に取り組んでいる。校務支援ソフトやICT機器を活用した業務改善や日課の工夫等、実態に応じた改善を図りながら、教職員の授業準備や児童生徒と向き合う時間の確保にもつなげている。

欠席連絡用アプリの利用定着やGoogleWorkspaceの活用により、欠席連絡および健康状態の確認が電話からウェブ上変わったことで、朝の電話対応にかかる時間が解消されている。また、昨年度構築した校務DX化専用サイトの活用、研修会等により、校務DX化が進められており、ペーパーレス化により情報共有の速度が上がり、校務の効率化につながっている。

事業	目標達成度	本年度執行度	事業の妥当性	効果性	効率性(コスト)	効率性(人員)	今後の方向
県教育委員会「学校の働き方改革推進プロジェクト」との連携	A	100%	5	5	4	4	継続
各園・学校への調査	A	100%	5	5	4	4	継続
各園・学校での取り組みへの支援	A	100%	5	5	4	4	継続
校務システムクラウド化の推進	A	100%	5	5	4	5	継続
平均		100%	5	5	4	4.3	

※ICT… Information and Communication Technologyの略。情報通信技術。

※Google Workspace… Gmail、カレンダー、ドライブ、Meetなどのアプリを1つに集約したクラウドサービス。(Google Workspace公式サイトを参照)

※DX… デジタルトランスフォーメーションの略式表記。ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること(出典 総務省サイトより)

Ⅳ 御前崎市教育委員会の自己点検及び評価

重点取組の施策について、具体的な事業を御前崎市総合計画に関連付けられる項目で自己点検評価シートにまとめました。評価方法は、次のとおりです。

◎事業の目標達成度 S…目標以上の成果 A…目標どおりの成果 B…目標まであと少し C…まだ目標に届かない D…達成に努力を要する	◎事業の本年度執行度 本年度事業の遂行完遂 100%で表す 完遂できなかったもの 0～99%の数値で表す	◎点検・評価について ○妥当性・効果性・効率性 5…非常に高い 4…高い 3…どちらともいえない 2…低い 1…非常に低い	◎今後の方向 ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤一部変更 ⑥修正検討 ⑦転換 ⑧中止
--	--	---	--

子どもが育つ基盤づくり

5-1-1 スクラムによる市全体の教育力の向上

事業 (重点取組)	目標 達成度	本年度 執行率	点 検 ・ 評 価		今後の方向
総合教育会議・ 移動教育委員会の開催 (教育総務課) (ー)	A	100%	事業の 妥当性	5	① 継続 総合教育会議は、御前崎市の教育を市長と共有していく機会として継続する。移動教育委員会も教育委員が事務局職員以外と意見を交わす機会であり、実施を継続する。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
スクラム・ス クール運営協議 会の開催 (学校教育課) (1)	A	100%	事業の 妥当性	5	① 継続 「社会に関かれた教育課程」が求められる中で、学校・家庭・地域の連携は今後ますます重要となっていく。引き続き、スクラムスクール運営協議会を軸に連携の推進を図る。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	

※スクラム・スクール運営協議会 … 御前崎市のコミュニティー・スクール運営協議会の名称。

事業 (重点取組)	目標 達成度	本年度 執行率	点 検 ・ 評 価		今後の方向								
キャリア教育の 充実 (学校教育課) (13)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	CSディレクターを各中学校区で1名ずつ配置し、学校からの要望にすぐに対応できるようにしている。各中学校での職業講話や職業体験実施にあたり、CSディレクターが地域の企業や施設と調整を図ることで、円滑に地域とつながることができている。また、教員の業務負担の軽減にもつながっている。	① 継続 子供たちの興味や関心、希望に沿った活動や学びのために、それに応じた地域とのつながりがつくれるよう、引き続き地域人材の発掘と活用の機会をつくり、職業観や生き方を学ぶ機会を充実させる。
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	5												

※CSディレクター…コミュニティ・スクール・ディレクター。学校と地域で作る学びの推進のために活動している。

防災教育の推進 (学校教育課) (—)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	4	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	<p>総合防災訓練を通じ、教育委員会と学校の初動対応を確認のうえ、各校長と共有した。</p> <p>また、天候による天候判断に加え、Jアラート、地震、原子力災害、および臨時休校時の放課後児童クラブの対応について周知し、共通理解を図った。</p> <p>防災教育については、県からの通達等を各園・小中学校に周知し、組織的な取り組みを推進した。</p>	① 継続 多様な状況を想定して危機管理マニュアルの見直しを図るとともに、初動マニュアルの整備に取り組む。あわせて、地域防災訓練や県のジュニア防災士養成事業などを通じ、児童生徒の防災意識を多角的に高める。
事業の 妥当性	5												
効果性	4												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	5												
学校支援地域本部の実施〔地域 学校協働本部〕 (学校教育課) (—)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	4	市内の園や学校の必要に応じて地域ボランティアの派遣を行っている。内容は、授業における専門的な支援や、登下校の見守り、読み聞かせなど多岐にわたっている。また、建設業組合に依頼して、施設の修繕・整備も行っている。2名の地域コーディネーターが各校の要望をとりまとめ、登録しているボランティアと連絡調整を行い、円滑に学校と地域がつながることができている。	① 継続 学校の負担軽減のため、教職員では対応の難しい内容について支援を広げる。
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	4												

※地域コーディネーター… 学校地域支援本部事業において、学校とボランティアの連絡調整を行い、学校のニーズに応じたボランティアの派遣を支援する役目がある。

◎事業の目標達成度 S…目標以上の成果 A…目標どおりの成果 B…目標まであと少し C…まだ目標に届かない D…達成に努力を要する	◎事業の本年度執行度 本年度事業の遂行完遂 100%で表す 完遂できなかったもの 0～99%の数値で表す	◎点検・評価について ○妥当性・効果性・効率性 5…非常に高い 4…高い 3…どちらともいえない 2…低い 1…非常に低い	◎今後の方向 ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤一部変更 ⑥修正検討 ⑦転換 ⑧中止
--	--	---	--

5-1-2 人としての根を養うための、市の特色を生かした教育の推進

事業 (重点取組)	目標 達成度	本年度 執行率	点 検 ・ 評 価		今後の方向		
			事業の 妥当性	効果性			
学校における読 書活動の推進 (学校教育課) (3)	A	100%	事業の 妥当性	5	4名の司書が各小中学校の 図書館担当職員と連携し、読 書活動の推進に取り組んだ。 年2回開催される、学校図 書館連絡会では、各校の实践 事例を共有し、自校の活動に 反映させることで全体の質的 向上を図った。また、各学年 の単元計画に基づき、授業で 活用可能な図書を精査・明記 した資料を作成した。授業内 での積極的な図書活用の支援 体制を整えた。	① 継続	学校図書館連絡会 においては、現場の ニーズを的確に反映 させた内容を検討・ 実施する。今後も引 き続き効果的な实践 事例の共有を継続 し、児童生徒の読書 意欲を喚起するこ とで、図書の貸出冊 数増加に向けた取り 組みを推進する。
			効果性	5			
			効率性 (コスト)	5			
			効率性 (人員)	5			
市立図書館と学 校図書館との連 携 (図書館・ 学校教育課) (3)	A	100%	事業の 妥当性	5	市立図書館と学校との連携 に向け、連絡会等による情報 共有や巡回貸出を行ったこと で、子供読書活動の推進に一 定の成果が見られた。更に小 学生の見学会や、中学生の職 場体験を通じて図書館及び読 書への興味・関心を喚起でき た。また、児童生徒の作品等 の展示についても、本人のモ チベーションの向上や図書館 の利用促進に繋がった。	① 継続	学校現場のニーズ を踏まえた連携体制 の構築に努める。今 後も情報共有を重 ね、巡回貸出や読書 支援の内容を充実さ せていく。子供読書 の更なる推進を目 指し創意工夫してい く。
			効果性	5			
			効率性 (コスト)	5			
			効率性 (人員)	4			
青少年成人教育 事業「御前崎ク エスト」の実施 (社会教育課) (2)	A	100%	事業の 妥当性	5	予定していた5プログラム (ファミリー7名、キッズ15 名、ジュニア27名、グロー カル12名、ユース6名)全て を実施した。異年齢集団によ る自然体験・地域資源を活か した活動(里山散策、シーカ ヤック、野外調理、竹林整備 等)を通じ、生きる力や生き 抜く力を養い、御前崎の自然 や産業・文化について体験的 に学び、地域愛の醸成につな がった。	① 継続	今後も、地域資源 を活かし、人材育成 事業を継続する。令 和8年度は、対象を 見直し、3プログラ ムを実施する。満足 度の高い事業とす るため、アンケート結 果を参考にして、活 動内容の検討も行 い、地域の理解や思 考力、想像力、応用 力を養うことを目指 す。
			効果性	5			
			効率性 (コスト)	4			
			効率性 (人員)	4			

※グローバル…グローバル(地球規模)とローカル(地域規模)を組み合わせた造語。地球規模の広い視野を持ちながら、地域に根差した視点で行動する考え方。御前崎クエストでのグローバルの活動は、中高生のグループ。

事業 (重点取組)	目標 達成度	本年度 執行率	点 検 ・ 評 価		今後の方向
声かけ運動の推進 (社会教育課) ※静岡県事業 (ー)	A	100%	事業の 妥当性	5	① 継続 今後も、この活動を広く周知し、参加者の募集も続けていく。
			効果性	4	
			効率性 (コスト)	5	
			効率性 (人員)	5	
青少年補導活動の実施 (社会教育課) (ー)	A	100%	事業の 妥当性	5	① 継続 市民及び商店への非行抑制の意識向上と青少年への啓発のため、今後も活動を継続する。補導員の総会で、青少年への接し方などの研修を設け、青少年の健全育成について理解を深めることを目指す。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	4	
市青少年健全育成会議・地区推進委員会の開催 (社会教育課) (1)	A	100%	事業の 妥当性	5	① 継続 今後も、学校と地域の連携を密にし、地区推進委員会と情報共有を図り、地域全体で青少年健全育成に取り組む。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	4	
「スクラム御前崎の集い」の開催 (社会教育課・学校教育課) (1)	A	100%	事業の 妥当性	5	① 継続 今後も、スクラムスクール運営協議会と連携して取り組む。また、地域との繋がりを密にし、子供・若者育成支援の機運を高めるため、令和7年度に実施した地区推進委員会との合同開催を今後も続けるかを検討する。
			効果性	5	
			効率性 (コスト)	4	
			効率性 (人員)	4	

※スクラム御前崎の集い…地域・学校・家庭・行政が連携して青少年を取り巻く現状や課題を共有し、地域一丸となり「地域を愛し未来を創る御前崎人」を育てる機運を高めるため行う集い。

◎事業の目標達成度 S…目標以上の成果 A…目標どおりの成果 B…目標まであと少し C…まだ目標に届かない D…達成に努力を要する	◎事業の本年度執行度 本年度事業の遂行完遂 100%で表す 完遂できなかったもの 0～99%の数値で表す	◎点検・評価について ○妥当性・効果性・効率性 5…非常に高い 4…高い 3…どちらともいえない 2…低い 1…非常に低い	◎今後の方向 ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤一部変更 ⑥修正検討 ⑦転換 ⑧中止
--	--	---	--

スクラム・スクール・プラン（園・小・中・高の途切れのない教育）で推進する子どもの育成

5-2-1 生きていく力の基礎の育成

事業 (重点取組)	目標 達成度	本年度 執行率	点 検 ・ 評 価		今後の方向	
巡回相談、教育 相談の実施 (学校教育課) (—)	A	100%	事業の 妥当性	5	巡回相談においては、各園・各校のニーズを反映させ、年2回の定期的な実施を通じて効果的な助言・支援を行った。また教育相談では、相談内容を園や学校と共有することで、現場だけでは把握が困難であった家庭の背景にある課題を知る機会となった。この情報共有により、多角的な視点からの状況理解が進み、個々のケースに応じた適切な支援へとつながった。	① 継続
			効果性	5		
			効率性 (コスト)	5		
			効率性 (人員)	5		
巡回相談においては、各園・各校が必要とする時期に最も効果的な支援が行えるよう、相談員、学校現場と連携し、計画的な運用を行う。また、教育相談については、より多くの保護者が相談の機会を得られるよう、調整を柔軟に行う。						

◎事業の目標達成度 S…目標以上の成果 A…目標どおりの成果 B…目標まであと少し C…まだ目標に届かない D…達成に努力を要する	◎事業の本年度執行度 本年度事業の遂行完遂 100%で表す 完遂できなかったもの 0～99%の数値で表す	◎点検・評価について ○妥当性・効果性・効率性 5…非常に高い 4…高い 3…どちらともいえない 2…低い 1…非常に低い	◎今後の方向 ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤一部変更 ⑥修正検討 ⑦転換 ⑧中止
--	--	---	--

5-2-2 変化の激しい今後の社会を生き抜くための資質・能力の育成

事業 (重点取組)	目標 達成度	本年度 執行率	点 検 ・ 評 価				今後の方向
			事業の 妥当性	効果性	効率性 (コスト)	効率性 (人員)	
市独自の学力調査の実施、分析と活用をもとにした各校での指導 (学校教育課) (7)	A	100%	5	5	5	5	①継続 全国学力・学習状況調査は小学校6年生と中学校3年生を対象とするため、その他の学年に対して継続して実施していくことで、経年での比較を分析し、引き続き授業改善等に活用する。
全国体力運動能力・運動習慣等調査の分析と活用 (学校教育課) (9)	A	100%	5	5	5	5	①継続 調査結果を活用し、授業改善だけでなく、「早寝・早起き・朝ごはん」などのよりよい生活習慣を確立する。
スクラムゼミナールの実施 (学校教育課) (7)	A	100%	5	5	5	5	①継続 スクラムゼミナールを通して、授業改善や乳幼児教育の重要性についての理解を進めている。奈須教授より、本市の実態に合わせながら、専門的かつ最新の教育情勢やそれに関わる情報を用いた指導をいただけるため、今後もこれを活用した授業改善を推進する。

※スクラムゼミナール …「授業改善スーパーバイザー」を招聘し、小中学校で新学習指導要領にある「資質・能力」の育成を目指した御前崎市の授業改善の取組研修。

事業 (重点取組)	目標 達成度	本年度 執行率	点 検 ・ 評 価		今後の方向								
教職員対象各種 研修会の実施 (学校教育課) (7)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	<p>教職員の分掌等に応じた各種研修会を年間計画に位置付け実施した。授業改善推進委員会では、市授業改善テーマの実現に向け、児童生徒主体の授業づくりを引き続き推進した。</p> <p>教頭研修会では、外部講師を招聘し、学校の危機管理意識のさらなる向上のために重要な視点等を共有することができた。</p>	<p>① 継続</p> <p>各種研修会における目標を達成するための手立てを明確にするとともに、達成状況を把握する。</p>
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	5												
外国語指導助手 (ALT)の配置 (学校教育課) (7)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	<p>3名のALTおよび1名の英語専科教員の派遣を通じて、小学校の外国語活動・外国語授業の充実を図った。英語専科教員が核となり、近隣校と連携した取り組みを展開することで、中学進学を見据えた指導体制を構築することができた。また、ALTが児童生徒と積極的に交流することで、子供たちが生きた英語に親しみ、楽しく学習に取り組む環境を実現した。</p>	<p>① 継続</p> <p>授業内での指導に留まらず、ALTのさらなる効果的な活用方法を模索する中で、英語をより身近に感じ、自然に活用できる教育環境づくりを推進する。</p>
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	5												
ICT支援員の 配置 (教育総務課) (8)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	<p>GIGA第1期の最終年を迎えた。本年度は、小学校は平均月3回、中学校は平均月2回の対面支援を行った。教員の授業づくり支援に加えて、児童生徒一人一人が学習者用端末を活用できる環境整備や操作補助を行った。また、教職員に対しては、校務DX化専用サイトの活用やミニ研修会の開催により、校務DX化を進めている。ICT支援員は、学校現場に必要な不可欠な存在となっている。</p>	<p>① 継続</p> <p>個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実を図るため、支援員による授業支援を継続する。ICTを利用した質の高い教育を目指すためにも、環境整備や教職員の研修も充実が必要である。引き続き、日々変化する学校の多様なニーズに応じた支援をしていく。</p>
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	5												

※GIGA第1期 … 御前崎市が、GIGAスクール構想により最初に導入した一人一台端末を使用する最終年度を迎えた。令和8年度から小学校3学年分と中学校は、更新した第2期の端末を使用する。

※GIGAスクール構想 … 特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現すること。また、これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すこと。

※ICT … Information and Communication Technologyの略。情報通信技術。

※DX … デジタルトランスフォーメーションの略式表記。ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること（出典 総務省サイトより）

事業 (重点取組)	目標 達成度	本年度 執行率	点 検 ・ 評 価		今後の方向								
情報モラル学習 の推進 (学校教育課) (8)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	NPO法人e-lunchに 業務委託して、各校年1回の 情報モラル教育を実施した。 また、同様に中学校を対象と したネットパトロールを依頼 した。ネットパトロールを通 して、SNSを使った安易な 個人情報の投稿や人間関係の トラブルが発見され、素早い 対応ができた。情報活用能力 や情報モラルの育成だけでな くリテラシーの向上につな がる研修を実施する。	① 継続 今年度末をもって e-lunchが業 務を終了するため、 新たな委託先を見つ け、引き続き、児童 生徒の情報モラルの 育成とトラブル要因 の検知が行える体制 を継続する。
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	5												
【再掲】 学校における読 書活動の推進 (学校教育課)													
【再掲】 市立図書館と学 校図書館との連 携 (図書館・学校 教育課)													
学習支援員等の 配置 (学校教育課) (10)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	4	効率性 (人員)	3	各校の実態に応じて学習支 援員を配置し、入学当初の1 年生や通常学級に在籍する支 援を要する児童生徒等への適 切な対応が可能となり、落ち 着いた学習環境づくりにつな がっている。 外国人児童生徒への対応、 ケース会議、各専門機関との 連携、就学支援等、各専門指 導員が力を発揮し、学校運営 の大きな力となっている。需 要も高まっており人材確保も 必要である。	① 継続 通常学級で支援を 要する児童生徒や個 のニーズに応じた支 援を要するケースが 増加している。各校 の実態に応じて効果 的な配置をするとと もに先を見通した人 材確保に努める。
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	4												
効率性 (人員)	3												
いじめ問題対策 連絡協議会の実 施 (学校教育課) (6)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	いじめ問題対策連絡協議会 では、各校の現状を共有する とともに、いじめ認知につい ての協議を通じて、普段から 関係諸機関が連携できる関係 づくりと共通理解を行った。	① 継続 いじめ問題の深刻 化や命に係わる事態 に発展することを防 ぐためにも、校内の 組織的対応を常に念 頭に置きながら、速 やかに関係諸機関と 連携できるような体 制づくりを強化す る。
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	5												

事業 (重点取組)	目標 達成度	本年度 執行率	点 検 ・ 評 価		今後の方向									
【再掲】 巡回相談、教育 相談の実施 (学校教育課)														
就学支援委員 会、個性伸長教 育専門家チーム 会議の実施 (学校教育課) (10)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	<p>就学支援委員会において、特別な教育的支援を必要とする園児・児童生徒一人一人に対し、適切な学びの場について慎重な審議を行った。各園や小中学校、検査機関、医療機関等の多様な関係機関と連携を図ることで、丁寧な就学支援を推進した。</p> <p>専門家チーム会議では、対象園児・児童生徒の支援方法や、次年度の学びの場について検討できた。</p>	① 継続	<p>年度初めに開催する特別支援教育コーディネーター研修において、御前崎市が掲げる「個性伸長支援教育」の理念について、共通理解を図る。また、専門家チーム会議での個々に応じた支援のアドバイスを日々の指導に繋げる。</p>
事業の 妥当性	5													
効果性	5													
効率性 (コスト)	5													
効率性 (人員)	5													
適応指導教室 「サンルーム」 の運営 (学校教育課) (10)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	4	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	<p>適応指導教室「サンルーム」は、学校や集団生活等に不安を抱える児童生徒が利用をし、学習の機会や居場所としての機能を果たしている。昨年度より利用者や需要が増えていることを考え、より効果的に連携できるような体制づくりが必要である。</p>	① 継続	<p>様々な理由で学校や教室に入れない児童生徒の学びの機会や居場所としての機能果たすサンルームの役割は今後ますます必要となるため、支援や連携の充実を継続する。</p>
事業の 妥当性	5													
効果性	4													
効率性 (コスト)	5													
効率性 (人員)	5													
G I G Aスケー ルの推進 (教育総務課) (8)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	<p>個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るため、授業内で一人一台端末を活用したクラウドや授業支援ソフトウェアの活用が定着してきた。</p> <p>特に、単元の情報開示や授業環境の充実という視点からの活用が浸透しはじめ、目的を明確にした利活用の仕方が定着してきた。G I G Aスクール構想の一人一台端末が多様な授業づくりのあり方を支えている。</p>	① 継続	<p>これからの社会に必要な資質・能力を育成するために、多様かつ柔軟な授業づくりの在り方が重要であり、それを支えるためにG I G Aスクール構想の推進は必須である。進化する時代に対応する学習環境とするため、今後も整備や改善により、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るために支援していく。</p>
事業の 妥当性	5													
効果性	5													
効率性 (コスト)	5													
効率性 (人員)	5													

※利活用 … 利用と活用のこと。

※G I G Aスクール構想 … 特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現すること。また、これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すこと。

◎事業の目標達成度 S…目標以上の成果 A…目標どおりの成果 B…目標まであと少し C…まだ目標に届かない D…達成に努力を要する	◎事業の本年度執行度 本年度事業の遂行完遂 100%で表す 完遂できなかったもの 0～99%の数値で表す	◎点検・評価について ○妥当性・効果性・効率性 5…非常に高い 4…高い 3…どちらともいえない 2…低い 1…非常に低い	◎今後の方向 ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤一部変更 ⑥修正検討 ⑦転換 ⑧中止
--	--	---	--

5-2-3 子どもたちが可能性に挑戦できる教育環境の整備

事業 (重点取組)	目標 達成度	本年度 執行率	点 検 ・ 評 価		今後の方向								
安全安心な教育 環境の向上 (教育総務課) (—)	A	100%	<table border="1"> <tr><td>事業の 妥当性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>4</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>5</td></tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	4	効率性 (人員)	5	長寿命化計画に沿って、浜岡東小学校の給水管更新工事を行った。 また、教職員、児童生徒が学校で安全に生活し、安心して学校活動できるよう、必要な修繕工事を実施した。	①継続 クラスの増減に応じた施設整備、社会情勢や環境に応じた整備対応を行う。
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	4												
効率性 (人員)	5												
特別教室の多機能化 (教育総務課) (—)	B	100%	<table border="1"> <tr><td>事業の 妥当性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>4</td></tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	4	御前崎小学校、白羽小学校の特別教室のエアコン整備を行い、快適な学習エリアの拡張が図れた。 これで、市内全校の普通教室・特別教室の空調整備が完了した。	①継続 今後も学校要望の妥当性や重要度に応じて、施工方法を工夫しながら整備を行っていく。
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	4												
学校再編計画の 検討 (教育総務課) (12)	B	70%	<table border="1"> <tr><td>事業の 妥当性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>3</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>5</td></tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	3	効率性 (コスト)	5	効率性 (人員)	5	御前崎地区、白羽地区の未就学児の保護者に、現況の説明を行った。引き続き、市の執行部や関係団体との協議を進めながら、今後を見据えた形での学校再編計画について、検討を進める。	①継続 学校再編計画案について慎重に検討し、市民へ丁寧な説明を行いながら、計画策定をしていく。
事業の 妥当性	5												
効果性	3												
効率性 (コスト)	5												
効率性 (人員)	5												

事業 (重点取組)	目標 達成度	本年度 執行率	点 検 ・ 評 価		今後の方向								
学校のICT環境の向上 (教育総務課) (8)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	<p>GIGA第1期の最終年を迎え、小学校、中学校とも全学年での学習者用端末の活用、教職員の校務DX化が推進されている。本年度はGIGAスクール構想の初年度に導入した小学校3学年分と中学校分の学習者用端末を来年度から新しい端末に更新するため、入替作業を実施した。教職員の校務用端末は、サポート終了のWindows 10から11にアップグレードするとともに、更新時期の端末は入替を実施した。</p>	① 継続 ICT環境整備は校務および学習環境にとって必要不可欠である。教材の在り方は、社会の変化に対応して変わるため、ICT環境整備を行う必要がある。また校務DX化もさらに推進する。引き続き利用の充実と環境整備を行っていく。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	5												
ICT関連周辺機器の安定稼働 (教育総務課) (8)	A	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	5	<p>集中管理している教育ネットワークサーバーは、適切な管理委託により安定稼働している。GIGAスクール構想で設置・導入した周辺機器やソフトウェアの有効活用と校務DX化の推進に繋ぐことができた。</p>	① 継続 機器の安定稼働に努めるとともに、文部科学省のメッセージや学校のニーズを捉え、必要な周辺機器の整備をコスト意識を持ちながら継続していく。
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	5												

※GIGA第1期 … 御前崎市が、GIGAスクール構想により最初に導入した一人一台端末を使用する最終年度を迎えた。令和8年度から小学校3学年分と中学校は、更新した第2期の端末を使用する。

※GIGAスクール構想 … 特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現すること。また、これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すこと。

※ICT … Information and Communication Technologyの略。情報通信技術。

※DX … デジタルトランスフォーメーションの略式表記。ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること（出典 総務省サイトより）

◎事業の目標達成度 S…目標以上の成果 A…目標どおりの成果 B…目標まであと少し C…まだ目標に届かない D…達成に努力を要する	◎事業の本年度執行度 本年度事業の遂行完遂 100%で表す 完遂できなかったもの 0～99%の数値で表す	◎点検・評価について ○妥当性・効果性・効率性 5…非常に高い 4…高い 3…どちらともいえない 2…低い 1…非常に低い	◎今後の方向 ①継続 ②完了 ③拡大 ④縮小 ⑤一部変更 ⑥修正検討 ⑦転換 ⑧中止
--	--	---	--

5-3-1 笑顔でつながる学びの環の醸成

事業 (重点取組)	目標 達成度	本年度 執行率	点 検 ・ 評 価		今後の方向									
「おまえざき学 びの航海図」の 活用と生涯学習 講座等の充実 (社会教育課) (13)	A	100%	<table border="1"> <tr><td>事業の 妥当性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>4</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>4</td></tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	4	効率性 (人員)	4	「おまえざき学びの航海図」を市民講座や社会福祉法人Mネット、市管内2中学校の4か所で活用した。ワークシートを元に、対話をすることで得た学びや気づきが次の一歩に繋がった。生涯学習講座については、市役所各課や教育委員会が企画運営する講座や地区センター講座、自主講座など100を超える講座を市民に提供し、3000人を超える方が参加した。また、講座情報をまとめた生涯学習ガイドブックを作成し、市民にわかりやすく情報提供を行った。	① 継続	今後も、「学びの航海図」を活用し、対話による学びや気づきが得られるように、年3回開催を目指す。生涯学習講座は、更なる充実や様々な年代からの参加を狙う。教育委員会主催の講座だけでなく、首長部局や関係団体合わせて、100講座の開催を目指す。
事業の 妥当性	5													
効果性	5													
効率性 (コスト)	4													
効率性 (人員)	4													
「学びの循環」 の仕組みづくり の推進 (社会教育課) (13)	A	100%	<table border="1"> <tr><td>事業の 妥当性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効果性</td><td>5</td></tr> <tr><td>効率性 (コスト)</td><td>4</td></tr> <tr><td>効率性 (人員)</td><td>4</td></tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	4	効率性 (人員)	4	個人や仲間との学びが循環できるように、循環を手助けするツールとして、学びの航海図、学びのパスポート、生涯学習ガイドブックを作成した。パスポートは、30学びを達成した4名へ認定証を発行し、次への意欲に繋げた。	① 継続	今後も、学びが循環できる環境を整えていく。また、学びが次のステップに進むよう、企画政策課などと連携していく。
事業の 妥当性	5													
効果性	5													
効率性 (コスト)	4													
効率性 (人員)	4													

※おまえざき学びの航海図 … ライフステージごとの目指す姿を記入することで、一生学ぶ人生航海の道しるべや人生のつながり方を表すために御前崎市が作成した生涯学習アイテム。

※学びのパスポート … 講座やサークル活動、芸術鑑賞やスポーツなどで得た学びを1回ずつ記入して振り返るために、御前崎市が作成した生涯学習アイテム。1冊に30回の学びが記録できて、1冊終了を申請するごとに認定証が交付される。

V 令和7年度教育委員会の活動

(1) 御前崎市牧之原市学校組合教育委員会委員の名簿

(令和8年3月現在)

役職名	氏名	任期
教育長	吉村 紳治郎	令和5年4月1日～令和9年3月31日
委員 (職務代理者)	増田 克之	令和2年1月17日～令和10年1月16日
委員	松林 義樹	令和2年7月11日～令和9年1月16日
委員	松下 充利	令和4年1月17日～令和8年1月16日 (任満了により退任)
委員	馬 渕 香 澄	令和6年1月1日～令和11年1月16日
委員	佐藤 孝弘	令和8年1月17日～令和12年1月16日 (新任)

(2) 協議事項

教育委員会が管理・執行する事務

項目	件数	点 検
(1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。	1	○令和8年度重点取組(案)について協議した。
(2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。	0	
(3) 県費負担教職員の懲戒及び校長の任免その他の進退について内申すること。	1	○令和8年度教職員人事異動について内申を行った。(うち、懲戒件数0)
(4) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。	1	○令和8年度当初予算案について具申した。
(5) 第26条の規定による点検及び評価に関すること。	1	○令和7年度御前崎市教育委員会の活動及び事務について点検・評価を行った。
(6) 教科用図書の採択に関すること。	0	
(7) その他	2	○令和7年度準要保護児童生徒の認定 ○令和8年度準要保護児童生徒の認定について審議した。

総合評価（2025年度）

（1）事務評価委員会による評価の概要

今年度の御前崎市教育委員会における自己点検・評価における目標達成度でBが付された項目は「エネルギー教育の推進」「デジタル教材の活用（GIGAスクールの推進）」「部活動検討委員会の開催」「競技部会の開催」「地域展開先行事業の実施」「デジタル化社会に対応した読書環境の整備（図書館）」「特別教室の多機能化」「学校再編計画の検討」「地産地消の推進」「ウェブサイトなどによる広報活動の充実」「文化財等の整理・保存事業」です。また、執行度も上記一部の項目等を除き、100%もしくはそれに近い数値となっています。

また上記各項目の内実について総合評価会議における聞き取り結果からは、目標達成の課題のある事業についても、環境条件の変化等の不可抗力によるものであり、業務遂行の瑕疵または怠慢により生じたものとは考えることは妥当ではありません。

このように、一部の事業に課題は残されているものの、総じて言うならば教育委員会事務局の業務及び自己点検・評価は適切に行われており、概ね期待された成果を達成すべく努力が続けられていると評価できます

また現時点で課題のある事業についても、率直にその実態が記載されています。例えば部活動の地域展開等、今後の児童生徒の成長に関してきわめて重要な影響を及ぼしうる事項の今後のあり方について、十分な見通しが立っているとは言えませんが、これらは他の市町においても同様であり、より充実した教育環境の整備に向けて誠実に評価を行った結果であると評価できます。

（2）今後の御前崎市教育委員会の諸事業の改善・発展に向けて

このように御前崎市教育委員会における諸事業は適切に行われていると評価できるものの、今日問われていることは、個々の事業改善にとどまらず、学校というシステム自体の見直しを伴う大きな転換であると考えられます。こうした公教育の今日的状況を踏まえ、今後の御前崎市の教育をさらに改善していくための検討の視点として、次の2点を指摘します。

第一に学校や子育ての環境変化をふまえた点検評価のあり方の見直しです。例えば授業における探究的な学びの強調、部活動の地域移行、教員のなり手不足の顕在化、教員の免許および研修制度の見直しといった諸課題は、いずれも重要な学校の改革課題と考えられます。そして上述のように今後とも、新たな教育課題・行政課題が生じ続ける可能性があります。

一方で御前崎市教育振興基本計画や御前崎市教育大綱は、令和8年度以降においても、4年間の見直しスパンをもつ計画であり、これは中長期スパンで教育改善を図ることで、より安定的に公教育を改善推進する性格のものであると言えます。

しかしその結果、同計画に忠実であるほどに、教育行政の基本構造に関する見直しはしにくくなり、社会の変化スピードに追いついていくことが困難になるという構造的リスクを内包したものであると言えます。

こうした課題を念頭に置かなければ、持続性を念頭に置きつつも、評価対象事業の入れ替えや見直しなどについてより積極的に対応していく必要があります。また、そうした教育委員会の機動性を担保

するための評価のあり方も議論していいものと考えます。

第二に、これと関連して、教育委員会の内部部局、教育委員会と市長部局が横断的に連携して事業に取り組む仕組みの模索です。

たとえば、市の教育上の中核的施策に位置付けられる『スクラム 御前崎』に包含されている諸事業は、点検評価の上では、様々な分野ごとに別個に記載されており、御前崎市教育委員会における自己点検・評価のみによっては、現行の教育の何をどう変化させようとしているのか見えにくい状態です。

とはいえ、現在の行政組織における業務推進の在り方を抜本的に見直すのは現実的ではありません。むしろこれらの課題に対しては、教育委員会の組織構造を見直すのではなく、例えば人事異動を手段に事業のすそ野全体を俯瞰できる人材を養成する、プロジェクト・チーム型の施策立案・推進によって対応するなどの工夫も一つの方法です。

2026年度は次期教育大綱や教育振興基本計画の見直しの年にあたります。これは自己点検・評価のあり方についても再検討し、より積極的な改善が図られるように見直した上で、それを市民にとってもより分かりやすく発信していく好機でもあることを意味します。

学校教育のあり方が大きな転換期にさしかかろうとしている今日、御前崎市においては未来志向の教育を創造すべく、市民ぐるみで変化への挑戦を続けてしていけたらと考えます。

総合評価

静岡大学教育研究科 教授 武井敦史